



公私雜報

第十四號

定價一匁

西垣文庫
文庫10
7290
14

伏稟

迷子まひご 欠落かけおち 落物おとしもの むろひ物 盗ぬすまを物
及び諸賣もの等を多く廣く世に弘め或は
問う便りを得たきりゆゑ少しも遠慮お
く其もよろくの書林又を繪草子屋の事が
を委しく書きたるしは遣をして其速に
出板しゅつばんしゝ四方に告ぐ知らせ申を多く
辰四月

公私雜報會社

西遊三庫



公私雜報第十四號

慶應四年五月廿一日

○閏四月六日 朝廷御布告

大政は一新の折柄、寡孤獨貧窮の者、自然療養
行届うべし。天年の寿を保つ事能くば、空敷落
命いのちの有之いてを憫む事と深く
御垂憐を為遊厚き

御仁惠の思食を以て、今度浪花ななばの
取建に相成て窮民にして、疾病療養不行届の者
にも、救助可仕為 在旨 仰出されし事

公私雜報第十四號

追て病院の取建の場所并醫師人物制度規則
等早く取調可_レ出旨の沙汰の事

○
兼ては 仰出の通_レ厚きは賑恤の思食を以て
今般大坂市中極老のものへ別紙の通_レは惠_レ
可_レ為_レ下置旨仰出されの事

但し兼ては 仰出の孝子節婦等尚早く出
る旨更_レは沙汰の事

別紙

一百歳以上

一人に付

給石三石

一九十歳以上

同

同 二石

一八十歳以上

同

同 一石

一七十歳以上

同

同 五斗

右の通_レは惠_レ可_レ為_レ下置の旨早く取計_レ可_レ
旨の沙汰の事

○逸士某田安殿への建白書

至陋至愚卑賤の分を不顧猥_レす 尊聴を犯し
奉_レ恐懼戦栗の至_レは座_レ得_レども愚衷鄙情
の痛苦_レ勝_レへか萬死難償の罪を冒し敢_レ言上
仕_レ先般 皇使臨城の勅書竊_レ拝見仕_レ處奉

欺 天朝と云ひ犯_レ 皇朝連日錦旗_一發砲_一と云叛
 謀相助の文字相見へい私_一之_一を四方の人_一質
 し_一へ_一を大_一其_一冤_一形_一と不_一仕_一是_一を臣_一等_一微_一力_一を
 圖_一ら_一ん_一極_一争_一以_一其_一實_一を_{アキカ}曝_一に_一し_一此_一冤_一罪_一を_一雪_一き_一
 度_一切_一齒_一扼_一腕_一狂_一奔_一迷_一走_一仕_一い_一儀_一に_一い_一座_一に_一然_一る_一を_一吾
 君_一不_一測_一の_一い_一宏_一量_一は_一為_一在_一能_一く_一詔_一を_一容_一を_一冤_一を_一包_一
 天朝_一に_一尊_一奉_一 皇國_一治_一安_一は_一為_一祈_一い_一い_一正_一意_一よ_一斯
 く_一至_一恭_一至_一順_一の_一い_一恪_一謹_一は_一為_一尽_一唯_一片_一言_一の_一い_一辨_一白_一ゆ
 無_一法_一座_一實_一は_一天_一下_一の_一公_一義_一を_一憂_一い_一頓_一は_一一_一家_一の_一私_一親

と捨_一て_一國_一を_一重_一し_一身_一を_一輕_一し_一遠_一く_一邊_一地_一は_一退_一れ_一遊
 い_一い_一深_一情_一恐_一多_一く_一ゆ_一勿_一体_一あ_一く_一ゆ_一不_一世_一の_一賢_一德_一駛_一世
 の_一御_一銳_一斷_一至_一公_一至_一忠_一の_一御_一行_一ひ_一と_一い_一や_一あ_一が_一臣_一子
 の_一心_一肝_一薰_一焦_一い_一る_一し_一日_一夜_一號_一哭_一流_一涕_一仕_一い_一さ_一ま_一と_一て
 今_一更_一君_一辱_一臣_一死_一の_一義_一を_一取_一て_一黨_一を_一結_一び_一群_一を_一成_一し_一或
 の_一伸_一寬_一の_一矢_一を_一謀_一る_一等_一の_一事_一仕_一い_一て_一對_一
 天朝_一恐_一入_一い_一の_一い_一る_一い_一び_一 王師_一入_一城_一の_一日_一大_一駕_一行
 邊_一の_一後_一追_一ゆ_一斯_一く_一寧_一靖_一を_一為_一祈_一い_一至_一誠_一の_一御_一意_一は_一
 奉_一反_一一_一動_一一_一作_一所_一を_一失_一し_一空_一く_一漁_一樵_一は_一退_一隱_一仕_一度_一願
 ひ_一奉_一て_一し_一所_一以_一は_一座_一に_一然_一ま_一ども_一臣_一謹_一む_一愚_一案_一仕

公系系幸 第一四号 三
いゝ人生在世無恥ヲ尊ぶ有恥の生ハ無耻の死
又如ういふ況んや國家存亡の際義ニ依リ道を踏
み寧耻有て存せんよと亡て無^キ恥の善ニ如うい
ふ能く存亡の理を明ら^して以^て其理を諍
えさうをわ^らび若し吾 徳川の御家實ニ罪状
勅諭の如くあるを假令寛大の

天恩をう^らむ 御家名は立相成いとも汚を千
歳の正史に遺し辱を四海の衆口より取^りて以^て天
下より立^た成い^て面目の座^らる^るをわ^らび^て然
る^る真實の恭順を為^し在^りに付唯死一等を宥め

らる^る ともい^はれ^て決^{して}逆罪の汚名は消^え
と中儀は無^し座^を曖昧の事と以^て斯く詔を銜^し
醜を忍び 神祖以來 皇家御尊奉の^に勤勞を
廢し 皇室を富岳の安^に置^きし有^る勲の社稷を
一旦地^を墮^し好^し改^め 新君の大^に 宗廟を
は奉^り遊^びは事^を相成^いとも 御累世の神靈
後世の御子孫之^を何^と思^はる^る思^はる^る幾^も萬^の
臣民之^を何^とか申^上奉^るを^も是^を臣^が渙^然
と歸^るの日^に猶^も痛^苦焦^心敢^て冒^し萬^死言^上仕^い
所^に座^を仰^ぎ願^く 御家名は取^立の 朝

公系系 第一四号 三

命降るの日 新君と為成の御方様とて 先
君

天朝御尊奉 皇國治安は為祈の誠意の體認
は為在厚忠孝の大義を伸且懇切の至情は
為尽何卒公正の理を究る當日の事蹟を分明に
し千載不滅の醜名を除き相成の極
朝廷は願は遊恐をあらく有恥存せんとして寧
云ても無恥は如きと申を確乎不拔の決志は
為在の極 殿下の賢明を以て尚能く之を
斟酌の上篤く忠告は為在座度如斯義理明は

相立の持の御家名の潔を全くさるの
なりは上る

天朝無偏無黨の 聖政を明し下の討東の兵
を出せし家門の譜代の諸侯等既往を悔悟し
将来を戒慎し恥を知り義に赴き了り且御旗本
の小臣も各宿疑を一掃して益忠節を相勵と奉
存斯く鼎鑊の刑を甘じ至陋至愚の誠情を以て
敢て奉陳上の条幸は 御憐恕は為垂の賢察は
下置の微臣の慶福世に餘り誠を以て難有
仕合奉存候誠恐誠惶萬死萬死

慶應四辰年後四月下辭 德川氏逸民 某

○
 高寄藩某の來書云云心配は成ひ小栗上州一
 条に付過日官軍~~某~~兩人當所へ出張仕て是非
 々々誅戮ひ多し様相迫らる無余儀去る六日權
 田村にありて三家に合ひ上上州ありびに徒臣
 三人を斷頭し翌七日同人息又一ありびに徒臣
 三人を是亦同様當所~~某~~ありて死罪を行ひしに
 實に憫然の至り座に
 勅命とを乍申余に~~某~~の處置見ると忍び不

に假令一人の罪人を死刑に行ひしにもせよ其罪
 状明白ありざれば中々以て死に處せざり非
 を況んや諸大夫以上の身を罪科に處ひ不能
 々吟味の上ありてを相成り難き儀と存ひ依之
 私ども一同に合尽力抗論仕へども存意貫徹
 不仕一命にも及むれば儀如何にも氣の毒の至
 り座に云々
 右小栗上野介刑罰に處ひ事ハ中外新聞外篇
 卷之十二に委しく出る

神田鍛冶町裏通下駄新道

洗濯屋與兵衛

右横濱住人より西洋流洗濯渡世仕り處此度
江戸表へ出張見世取了建渡世相始り間思
召有之諸君心中付了成下此段與兵衛代
了相願ひ申上

3200
古丹定金所

古丹定金所

少系奈幸
頁一四

丸山作哉